

糸満市学力向上推進の目標である「子供主体の学び合い高め合う授業づくり」「支持的風土の学級・学校づくり」「地域と共にある学校づくり」の三つを柱に、校内研修テーマ「確かな学力を身につけ、主体的に学び合う生徒の育成」～主体的・対話的で深い学び～のもと授業改善と学力向上推進についての取組、糸満市教育課程特例校「海人(うみんちゅ)科」における海洋教育の取組等を紹介します。

1 子供主体の学び合い高め合う授業づくり

(1) 授業改善と学力向上の推進

- ① 「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに授業改善を推進し基礎基本の定着を図る。
 - ・学習意欲の向上と思考力・判断力・表現力の育成を図るための学び合い、高め合う授業を実践する。
 - ・ペア・グループ学習等を取り入れ、学び合い高め合う、深い学びのある授業づくりを推進する。
- ② 校内研修と授業改善を連動させ、生徒の主体的な活動を促し、対話を意識した学び合いを展開し問いが生まれる深い学びに繋がる授業実践を行う。
 - ・毎時間の「めあて」の提示による指導目標の明確化を図り、1時間完結型の授業実践を行う。
 - ・めあて、まとめ、振り返りを連動させた授業展開と確認問題などを実施する。
 - ・調べ学習、ペア・グループ学習等の学習形態を通して自力解決していく学習態度を育成する。
 - ・自分の考えを発表する場面を多く設定することにより、発表することへの自信を持たせる。
- ③ 教科会・教科主任会・授業改善・学推委員会を充実させ効果的な取組の推進を目指す。
- ④ 『問いが生まれる授業サポートガイド』等、県・市の施策を基本にした授業改善を推進。
- ⑤ 研究主任を中心とする授業改善アドバイザー及び授業改善リーダーの効果的な活用。
- ⑥ 「1人1授業3参観」「学年別公開授業」の実施。
 学年別公開授業期間 3学年；9/3～9/9 2学年；10/11～10/15 1学年；11/15～19
- ⑦ NIE (Newspaper in Education)等の視点を取り入れた効果的な教材開発。
 - ・最終年度を迎えたNIE実践校としての取組は、教材研究や指導案検討などを校内研修の一環として組織的に進め、11月17日にNIE実践フォーラムを公開授業とともに実施した。



<1年 英語 >



<1年 社会 >



<2年 家庭 >



<2年 数学 >



<実践フォーラム(分科会) >



<実践フォーラム(全体会) >

- ⑧ 学習リーダーの育成と意図的なグループ編成及び座席配置による学び合い高め合う授業の推進。
 - ・学習に理解のある生徒(学習リーダー)と学習に遅れのある生徒を考慮した学習グループを編成する。
 - ・「活用する力の育成」を踏まえた教材の工夫によるペア・グループ学習を通して、教え合い・学び合いを実践する。
 - ・ペア・グループ学習、調べ学習等の学習形態を通して自力解決していく学習態度を育成する。
- ⑨ 電子黒板やタブレット端末などのICT等を活用し、学習意欲を高める効果的な授業の推進。
- ⑩ 小中連携による授業公開と合同研修会の実施。
 - ・糸満中学校区小中合同研修会を実施し授業改善に努める。
 - ・小中学校の教職員相互の授業参観と情報交換を実施し、中1ギャップの改善を図る。
 - ・小中共通取組事項の策定と実施による学習規律を徹底する。
- ⑪ 家庭学習及び支援員を活用した補習による基礎基本の定着。
- ⑫ 授業と家庭学習を連動させ、生徒一人ひとりへの基礎基本の定着。

(2) 学習を支える力の育成

- ① 「学習の規律10項目」の習慣化を図り学習を支える力を育成する。
 - ・朝の会における唱話等を通して、「学習の規律10項目」の意識を高める。

【糸満中学校学習の規律10項目】

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 ベル前着席・・・〈黙想!〉 | 2 授業の開始・・・〈お願いします!〉 |
| 3 授業中の返事・音読・・・〈しっかりと!〉 | 4 聴く姿勢・・・〈耳・目・心で!〉 |
| 5 授業での学習活動・・・〈はじめをつけて!〉 | 6 授業中の発言・発表・・・〈大きな声で!〉 |
| 7 学び合い高め合う姿勢・・・〈グループ学習!〉 | 8 認め合い支え合う姿勢・・・〈ペア学習!〉 |
| 9 授業の終了・・・〈ありがとうございました!〉 | 10 次の授業の準備・・・〈忘れずに!〉 |

- ② 日常的な取組で学習を支える力を育成する。
 - ・授業2分前着席、授業1分前の黙想、聴く姿勢など学習規律の徹底を図る。
 - ・本鈴と同時に授業開始、授業終了時間厳守を徹底する。
 - ・学習支援員及び地域学力向上支援事業（ゆいまーる教室）講師による補習指導、生徒一人一人への個別学習支援の充実を図る。
- ③ 授業と家庭学習を連動させた家庭学習を提示し、家庭学習の習慣化を図る。
 - ・5教科を中心に授業と連動した家庭学習課題を曜日ごとに示す。
 - ・朝（登校後、入室前）教室前の課題提出箱に提出する。係が名簿に記録後、課題を教科担当へ提出する。
 - ・教科担当は、内容等を点検し返却する。未提出者へは再提出などの声かけやを随時行う。
 - ・習得不十分な課題などは、全体への補足説明や個別指導を行い基礎基本の定着を図る。また、返却時には個別指導も行う。課題を点検・指導することで家庭学習の定着と習慣化につなげる。

時	日	教科	内容	1年	2年	3年	4年
		月国					
12/9		火社	プリント1枚		1004		
12/8		水英	プリント(復習)				
12/6		木理	プリント				
12/10		金数	プリント(復習)				

日	提出状況
12/8	社会 未提出
1	22.26
2	3
3	全員提出
4	全員
5	1.25.27.28

時	日	教科	内容	1年	2年	3年	4年
12/6		月国	漢字ノート P40~41				
12/17		火社	歴史ワーク P16~17				
12/1		水英	A4プリント1枚				
12/8		木理	ワークP52~71, 106~115 や・こ・は・い・の・け・の・り 提出は提出後				
12/3		金数	(単)式の計算、復習プリント 4つずつ提出は提出後				

<1年課題提示ボードおよび提出状況>

<2年課題提示ボード>

2 支持的風土の学級・学校づくり

(1) 自己肯定感を高める教育実践

- ① 生徒相互の交流の場を通じた人間関係形成能力を高める教育実践。
 - ・海洋教育とSDGsに関わる学級活動
 - ・学年・学級レクに関する学級活動
 - ・グループ活動を中心とした海洋教育の体験学習の実施
- ② i-チェックを活用した自己理解・他者理解を深める学級づくり
 - ・i-チェックに関する研修の実施。
 - ・教育相談旬間の実施（5月中旬、9月上旬、1月中旬）
 - ・アンケートの結果を踏まえた道徳・学活における活動の実施
 - ・アンケートの実施後、生徒の気になる回答に対して迅速に対応し、自己理解・他者理解を深めることへのサポートを行う。
- ③ 学級力向上プロジェクトの実施（「学級の日」の設定）
 - ・日々の活動以外に、生徒同士や教師と生徒が関わる時間を設け、「生徒が協力し、認め合い励まし合う場」や、「生徒が主体的に学級づくりに参画する機会と自己決定できる場」の充実を図る。
 - ・学級や学年の団結力を高める生徒会行事（糸中フェスタ）の実施。
 - ・学級をよりよくするために、各学級で目標を設定し生徒がお互いに支え合って目標の達成にチャレンジすることで、学級の団結や問題解決力の向上を図る。

(2) いじめ防止と学級力向上の取組

- ① 学級力向上プロジェクトの可視化による具体的目標の設定による学級づくり。
- ② いじめ防止に向けた「いじめ特設授業(道徳)」「学校生活アンケートの実施(毎月)」「人権の日の設定」(毎月10日)の推進

(3) 体験活動の充実

- ① キャリア教育の視点を踏まえ「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させる授業、課題解決的な学習や体験的学習を推進する。
- ② 修学旅行、職場体験学習、福祉体験学習等において、協働活動を充実させ「認め合い、励まし合う人間づくり」を推進する。→※新型コロナの為、中止
- ③ 海洋教育パイオニアスクール体験事業において、中高連携を推進しながら、地域の人々とふれあい、地域の特色である海に親しみ、地域に誇りを感じていけるような体験活動を目指す。
- ④ 職場体験学習や海人科と総合的な学習の時間における体験学習と関連させた勤労観や職業観、立志の育成を図る教科・領域の授業の実践。

3 地域と共にある学校づくり

(1) 今年度の取組

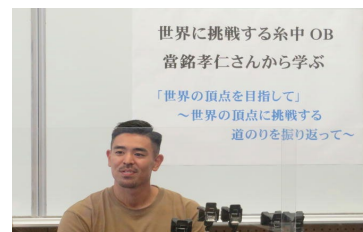
- ① 学校運営協議会（コミュニティスクール）の推進体制の構築と充実。
- ② 地域行事への参加と伝統文化の継承（ハーレー・糸満大綱引き）
糸満ハーレーと糸満大綱引きは新型コロナの為、中止になったが、9月17日、24日に糸満大綱引き実行委員会副委員長の上原義隆さんが2年生の全学級に糸満大綱引きについて授業を実施した。
- ③ 海洋教育（海人科）として糸満の海や環境について学習する際に地域人材の活用。
- ④ 地域と連携した職場体験学習。→※新型コロナの為、中止



<授業をする上原さん>

- ⑤ 系中OB会との連携（卒業式の巡視等）
- ⑥ 地域人材を活用したキャリア教育（2学年職業人講話など）
本校の卒業生である東京オリンピック選手の當銘孝仁さんが全校生徒へキャリア教育として講演会を実施した。

＜當銘選手の講演会(右)＞



(2) 海洋教育「海人(うみんちゅ)科」の取組

① ねらい

- ・系満市教育課程特例校「海人(うみんちゅ)科」における海洋教育の取組の充実を図る。
- ・「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する」学習の推進を図り、海洋への関心を高める。
- ・「海」という視点を通じて体験活動やそれらを組み合わせた探究活動を図り、知識・技能、思考力、判断力、表現力を高める。
- ・教科横断的な視点に立ち、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する。
- ・生徒が自己の将来や生き方を考え、主体的に進路選択できるよう、キャリア教育の視点からも学習の充実を図る。

② テーマ 1 学年「環境と海洋教育」 2 学年「地域と海洋教育」 3 学年「生き方と海洋教育」

③ 方針

- ・各学年 15 時間の設定とする。（総合的な学習の時間から 10 時間、学級活動から 5 時間）
- ・体験的な活動だけではなく、「探究的な学習」となるよう工夫する。
- ・各教科年間指導計画において、海洋教育との関連する内容がある場合はそれを位置づける。
- ・SDGs や NIE の視点を取り入れた展開を図る工夫をする。
- ・全職員の共通理解を図り、十分な協力体制を整える。

④ 内容

＜1 学年＞

講話「海ゴミ問題について」（沖縄水産高校）」、ビーチクリーン活動、探求活動、学級・学年発表会、竹富町「海洋教育サミット」への参加



講話



手旗信号



ロープ結び

＜2 学年＞

ビーチクリーン活動、課題設定・調査活動、探求活動（海と観光・産業について）、講話「ジョン万次郎と糸満」、学級・学年発表会



＜ビーチクリーン＞



＜講話(ジョン万次郎)＞



＜講話(キャリア)＞

<3学年>

講話「防災・減災について」、防災キャンプ ①救急救命救助訓練（海・陸）、②応急処置（心肺蘇生・止血処理）、③シェルター作り（テント設営、ロープ）、④炊き出し体験（海水で豆腐、魚料理など）、⑤火起こし体験（竹や空き缶での炊飯・エコキャンドル作り）、ビーチクリーン活動等、探求活動、学級・学年発表会



<防災キャンプ 全体講話>



<防災(バケツリレー)>



<救急救命>

4 学力向上強化月間の取組など（学力向上より抜粋）

(1) 学力向上強化月間の設定

- ① 4・5・6月の学力向上強化月間(既習事項の確認と学習規律の強化)
 - ・学習規律の徹底 ・定期テストの受け方の指導の徹底 ・定期テストの前の対策プリントの準備
 - ・入試の過去問題や全国学力・学習状況調査、県到達度調査等の補習プリントの準備（解答まで）
- ② 10・11・12月の学力向上強化月間（入試・県到達度調査等の対策強化）
 - ・事前に5教科の学習内容配列表と職員配置一覧の作成 ・過去問題や全国学力・学習状況調査、県到達度調査等の補習プリントの準備（解答まで）
- ③ 1・2・3月の学力向上強化月間・学習ステップアップ月間
 - ・5教科の学習内容配列表と職員配置一覧の事前準備 ・過去問題や全国学力・学習状況調査、県到達度調査等の補習プリントの準備(解答まで)

(2) 全国・学力学習状況調査や県到達度調査に向けた放課後学習会の取組

- ① 全国学力学習状況調査
 - ・必要に応じて必要な生徒を対象に、放課後の30分間学習会を実施する。
 - ・国語、数学の2教科の補習(テスト対策)として実施する。
 - ・補習指導は、国語・数学の2教科担当職員が該当する日に指導し、2教科以外の職員は補習指導のサポートを行う。
 - ・1、2学年の担当職員も3学年の補習を応援し、複数の職員で学習指導ができる職員配置を工夫する。
- ② 県到達度調査
 - ・必要に応じて、必要な生徒を対象に2～3回の放課後学習会を実施する。
 - ・3学年の担当職員は、1・2学年の補習を応援し、複数の職員で学習指導ができるよう職員を配置する。
- ③ 「手立て期間」の設定
 - ・学習活動での評価を指導に生かすための個別指導（補習）や支援などを行う期間として、学期ごとに「手立て期間」を設けている。 1学期：7/7～7/19、 2学期：12/6～12/14

5 成果と課題（諸調査結果など）

(1) 成果

- ① 様々な行事や日々の授業において「互いを認め合う」雰囲気を促すことで、生徒が主体的に学級づくりに参画し支持的風土を醸成することができた。その結果、「学校は楽しい」と感じる生徒が増え、

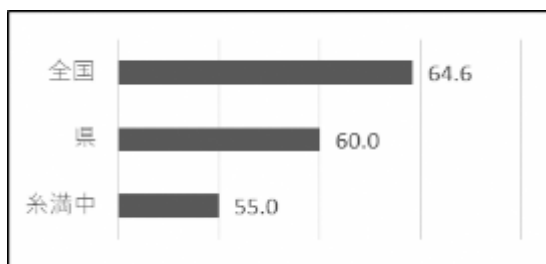
「将来の夢や目標」についての意識が高まり、「学び合い」において自信が持てたなどの成果があった。また、コロナ禍の中でも地域とのつながりを意識した海洋教育などを実施することができた。

- ② 「生徒の学力を県平均まで高める。」を総括目標に据え、下記のABを推進目標に学力向上に取り組ができた。12月の時点において目標が達成されつつある。(県到達度調査は2月実施)

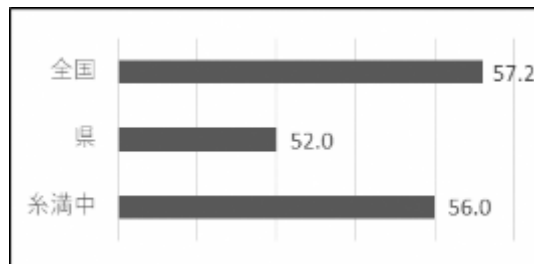
A；令和3年度学びのたしかめにおいて全教科の正答率が県の平均を超えた。また、無解答率が令和2年度の結果より減少した。

B；令和3年度全国学力学習状況調査において数学の正答率が県平均を超えた。また、無解答率を令和2年度の結果より減少した。

< 3年生 全国学力学習状況調査 (R3年5月) >

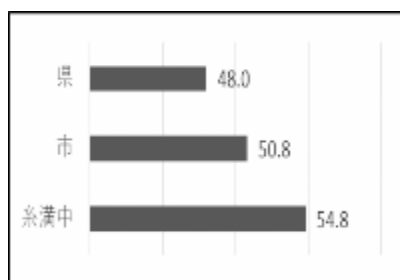


国語

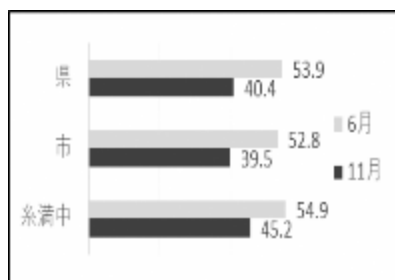


数学

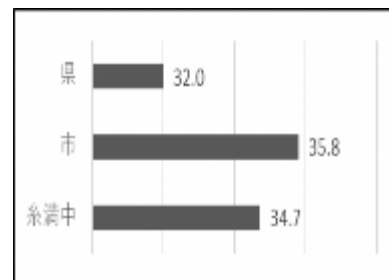
< 学びのたしかめ (R3年6月・11月) >



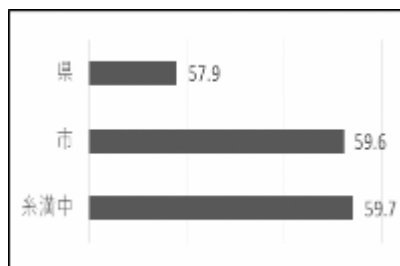
1年 国語



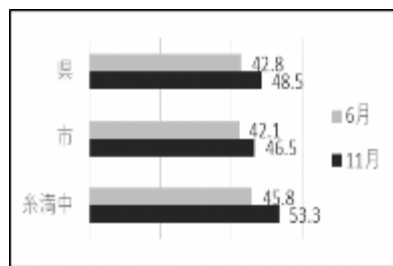
1年 数学



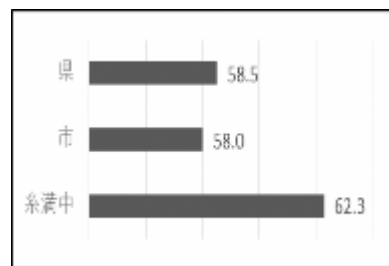
3年 数学



2年 国語



2年 数学



2年 英語

(2) 課題

- ① 「自分には良いところがある」項目では改善傾向は見られるが更なる取組を推進し、自己肯定感を高めていきたい。また、コロナ禍の中であっても実施できる体験活動などについて、地域と連携しながら推進し、地域との関わりを深めることができるようにする。そのためにも、学校行事と地域行事の日程調整や効果的に連携を行う組織体制の構築が必要である。
- ② 今年度同様全職員の協働体制のもと、基礎・基本の定着、生徒の主体的な活動を促し対話を意識した学び合いを展開し「問いが生まれる深い学び」に繋がる授業実践を行い、学力向上推進の取組を継続していく。